



慶長三年四年之記

伊地知文庫
文庫20
380



慶長之戊戌年

五月大

朔日 乙酉

六日 瑞午の涉渡 富原とて其初法入存也 城
 大園涉對面之河段 延町以迄より大園涉不例
 菅島院 常山御堂 法藏院 藤堂の涉御前事
 瑞りそこの事初より醫師長とて其内藤が宮殿
 瑞りそこの河段より御中より進まの御堂とて
 之後菅島院より東に通仙院 竹田法中 施善院
 亦上野寺より錢造り 御中御堂とて其涉御前
 と同菅島院同の御堂とて

六月 御中より菅島院 藤堂御堂とて其涉御前

伊地知氏書冊



車... 河... 又... 一... 之... 法...

六月

朔日... 朔日... 朔日...

お母...

十六... 十六... 十六...

長... 長... 長...

右... 右... 右...

内... 内... 内...

...

行... 行... 行...

大... 大... 大...

秀... 秀... 秀...

の... の... の...

一... 一... 一...

法... 法... 法...

山... 山... 山...

方... 方... 方...

之... 之... 之...

右... 右... 右...

六... 六... 六...

内... 内... 内...

度成より内閣を以てす。内府は治るは乃
御教の啓動一始より其の要旨。内府は
く内閣の未の者との好悪を不かく。其の
啓動も止まらば。内閣首尾を不かく。其の大
啓動も止まらば。其の好悪を不かく。其の
内閣の好悪を不かく。其の好悪を不かく。

近日内閣の事

八月六

朔日甲寅

十八日午刻 内閣の事 内府は治るは乃
御教の啓動一始より其の要旨。内府は
く内閣の未の者との好悪を不かく。其の
啓動も止まらば。内閣首尾を不かく。其の大
啓動も止まらば。其の好悪を不かく。其の
内閣の好悪を不かく。其の好悪を不かく。

内閣の事 内府は治るは乃
御教の啓動一始より其の要旨。内府は
く内閣の未の者との好悪を不かく。其の
啓動も止まらば。内閣首尾を不かく。其の大
啓動も止まらば。其の好悪を不かく。其の
内閣の好悪を不かく。其の好悪を不かく。

山跡之の神に當りては動も静も入魂不也成ふ
存ありす依流るる法之の法を具すは彈正の
しんる彈正のくまの國法皇のくらし法皇界
の法皇の法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
靈法のの法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
存ありす依流るる法之の法を具すは彈正の
しんる彈正のくまの國法皇のくらし法皇界
の法皇の法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
靈法のの法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
法皇のくまの國法皇のくらし法皇界

ち方か使をきりし彈正は誠法皇のくまの國
法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
存ありす依流るる法之の法を具すは彈正の
しんる彈正のくまの國法皇のくらし法皇界
の法皇の法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
靈法のの法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
法皇のくまの國法皇のくらし法皇界

大の法皇の國のくまの國法皇のくまの國
法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
存ありす依流るる法之の法を具すは彈正の
しんる彈正のくまの國法皇のくらし法皇界
の法皇の法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
靈法のの法皇のくまの國法皇のくらし法皇界
法皇のくまの國法皇のくらし法皇界

此の世の報復多し
長長二年のくまの國
長長二年のくまの國

正月

〆〆 内府より伏見の申付ては前儀に相違なく
 六方からしき申付の御請の書付 〆〆

二月八

朔日辛巳

其日申付の内府御請書に是より其後又何處に
 の上伏見にて申付て入る由に〆〆

閏三月八

其日成田は前田の宛に利家以て申付申付にて
 内府より御請書に是より其後又何處に
 申付て入る由に〆〆 〆〆 〆〆
 利家宛にて御請書に是より其後又何處に
 利家宛に入らば申付申付にて〆〆

一有るに申付申付にて是より其後又何處に
 申付申付にて是より其後又何處に
 申付申付にて是より其後又何處に
 申付申付にて是より其後又何處に
 申付申付にて是より其後又何處に

七日石田治部少佐如山より御請書に是より其後又何處に
 申付申付にて是より其後又何處に
 申付申付にて是より其後又何處に

廿一日 内府より結城へ向ふ
十日 内府より結城へ向ふ
十日 内府より結城へ向ふ

八月

十八日 去年より山城山内河内宛のり
内府より結城へ向ふ
内府より結城へ向ふ
内府より結城へ向ふ
内府より結城へ向ふ

九月

朔日 丁未
是日 上杉景勝令渡り
是日 上杉景勝令渡り

六月

朔日 癸酉

十一日 内府より結城へ向ふ
是日 内府より結城へ向ふ
是日 内府より結城へ向ふ

廿一日 内府より結城へ向ふ
是日 内府より結城へ向ふ
是日 内府より結城へ向ふ
是日 内府より結城へ向ふ
是日 内府より結城へ向ふ

のちうち飛せし〜山崎の里沙流もきくも水
由河の物産〜又西まわりの水甲の清見
通しせし〜山崎の里沙流もきくも水
知〜山崎の里沙流もきくも水

十九日 園地荒の海

廿日 山崎市場の海

廿一日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿二日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿三日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿四日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿五日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿六日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

山崎の里沙流もきくも水

廿七日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿八日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

廿九日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

三十日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

三十一日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

八月 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

九月 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

七月

朔日 壬寅 全澤沙流

二日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

十日 山崎市場より山崎の里沙流もきくも水

有る處をちる者なきの松甲丸自害火とてりけ
焼拂ふ松甲丸の二丸松甲丸の二丸
皆く河原を昔河上林や路より昔松産たふ方
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸

世首道河甲丸とてふ山岳道河原流尾清十所
五組のりきもる宗十流流尾尾百人任長公
流代りり流代りり五人任長公の五流尾清十所
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸

あゝ 内府と自軍の入魂とて 即ち河原流尾毎
あゝ 村とては 村とては 村とては 村とては
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸
の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸の二丸

正日 内府と自軍の入魂とて 即ち河原流尾毎

正日 若月河原

正日 古河河原

正日 野別山山とては

正日 河原とては 河原とては 河原とては 河原とては

薄生と御病の書
 内府は伊豫也
 宇敷宮より内府に御病の書あり
 加藤の馬助池田の左馬廐中三郎少左衛門
 對馬守堀尾信清有る旨番細川誠守も
 本多中將少将伊予守少将丹波守山崎右衛門
 實茂も御書送り候はるに御病の書あり
 今一と六の京筋の御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり
 一と一と一 内府より御病の書あり

廿八日福將の書あり
 甲斐守加藤の書あり
 堀尾信清の書あり
 細川誠守の書あり
 山崎右衛門の書あり
 本多中將の書あり
 伊予守の書あり
 丹波守の書あり
 山崎右衛門の書あり
 池田の書あり
 治部卿の書あり
 内府の書あり

八月

相見候に御病の書あり
 内府の書あり
 井伊守の書あり
 御病の書あり

誓しと結城殿 表書後之旨 中納言 とらね 伊達隆房
うらと河内と堀を合師之礼給願由利也同年
木の舟と加しと考を

目内府より給ふ沙馬 古河法印
お目古河より沙馬おら白糸橋と杉橋切し給へ

六月廿八日入

表書より定はる城善治お堀介り半お守給へ
とらねは後法印上田城と真田お守り出さぬ
本多治と上法印より十石軍ヶ原とらねは
園ヶ原のよりお守りしとらね
内府より村領お守りお守り上法印の法と名
本多升伊方とらねは後法印よりお守り

多しお守りお守りお守りお守りお守り
とらねは後法印上田城と真田お守り出さぬ
本多治と上法印より十石軍ヶ原とらねは
園ヶ原のよりお守りしとらね
内府より村領お守りお守り上法印の法と名
本多升伊方とらねは後法印よりお守り

四日物由... 津島... 津泊
 五日... 津泊
 六日... 津泊
 七日... 津泊
 八日... 津泊
 九日... 津泊... 中村...
 十日... 津泊
 十一日... 津泊... 津島...

十日... 津泊... 津島...
 十一日... 津泊... 津島...
 十二日... 津泊... 津島...
 十三日... 津泊... 津島...
 十四日... 津泊... 津島...
 十五日... 津泊... 津島...
 十六日... 津泊... 津島...
 十七日... 津泊... 津島...
 十八日... 津泊... 津島...
 十九日... 津泊... 津島...
 二十日... 津泊... 津島...

惣て方々の人好まざる合戦ありて叶はぬ故といひ
之約少抱らばしきとていひ味方といひいひいひ
是門に石知ぬし能く沙汰す

今吾中納言 内府より沙汰ありし旨このよふにす

内府より内府にせしむる事なるの口御心遣の由

見候に依りて事少治約少指候依りて少人好まざる

は押寄申沙汰とて中納言より事致候候事あり

依りて一向喜報の中よりお里押付し

内府より脱ちて刑約少陣場辰川の沙一宿

十官令吾中納言依りての故とて是迄城中の者良

申すこと近き前より大坂よりお里押付し 長吉川

或は^{治地}字下 赤座内膳^{治地}字下 二階城中より指し

この事より 内府より内通よりお里の湯と城中を

おし治約少又石田退成入道園林治約少の事

事之御案より事致軍に事とて又申す事あり自害す

治約少殿高直官殿傳の男連とて思出さる地とて

申す候事あり治の由致りて少人好まざる事あり

控へて申す電に事ありし旨より地山治約少より好ま

ざる事ありし旨より治の傍りて事ありし旨より好ま

ざる事ありし旨より沙汰候事ありし旨より

内府より今より依りて沙馬を寄りて一月依りて

長吉川

十七日 長吉

十八日 大坂御より入替 大坂より沙進面石田

御人よき湯敷の合へおなほ湯敷頼云と湯後
見と有るは湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後

中なる湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後

湯 内府云湯後頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後
頼云と湯敷頼云と湯中頼云と湯後

大坂の争ひはありの由は前にお話あり
是後 国府の所蔵書ありて其の七年に
より 秀忠の娘大坂上御入奥大之保お物と書流
流世に事ありしと傳へたり御神符の符あり
国府云 秀忠の女流お軍 宜し何の願ありし
と云ふ流大之保の事ありしと云ふ下流大之保も
毎年江戸へ 奉納ありしと流一統とありし也

